

男女共同参画の視点からの防災研修プログラム（概要）

平成28年 内閣府男女共同参画局

<背景>

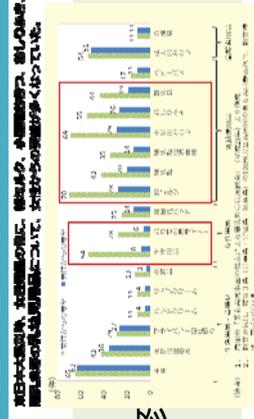
- 東日本大震災や平成28年熊本地震などの災害では、避難所等の災害対応において、女性や子育て家庭のニーズへの対応が十分でないことが課題。
- 内閣府は平成25年に地方公共団体の防災施策において男女共同参画の視点から必要な事項を示した取組指針を作成。
- この指針も含め、男女共同参画の視点からの災害対応について関係者が理解し、男女共同参画の視点を防災施策に反映させることが重要であり、これには、平時から防災施策に携わる職員に対する研修等の実施が重要。

<目的>

男女共同参画の視点をもって防災施策を企画立案及び実施できる地方公共団体の職員の育成

男性と女性で異なる災害時の支援ニーズ

災害発生直後、避難所の開設、物資の配布、食料の配布、避難生活の安定化等について、男女からの要望が多岐にわたっている。



- 座学とグループワークを組み合わせた参加型の研修
- 具体的な災害シミュレーションを想定して対策を考える実践的な研修
- 地域の実情に応じて研修内容をアレンジじできる柔軟な研修

避難所①

- 大規模な災害が起こったため、あぬは家族と共に、避難所となった小学校の体育館で被災者を受け入れる。
- 避難所の運営を行うため、住居による地帯を作ることになり、PTA会長であるあぬは運営会議に出席しました。先まっているのは、自治体の職員や自治会の役員など男性ばかりです。
- 運営会議で、様々な情報を収集する「情報班」や、避難者の把握や地域の管理を行う「管理班」、街上の環境の管理を行う「環境班」などを置くことになりました。あぬには、各班の業務の連絡を行う「調整班」を希望しましたが、「資料班」の班員になつてほしいと頼まれ引き受けました。

なぜ、男女共同参画の視点が防災に必要か（座学）

- ・ 災害対応には公助とともに、自助・共助が重要。
- ・ 共助を担う地域社会は多様。その基本が男女の違い。
- ・ 災害が与える影響や支援ニーズには男女差がある。
- ・ 一方、防災に関する意思決定過程は男性が中心。
- ・ 共助・公助をより機能させるため、男性中心型から男女共同参画型の防災にすることが重要。

<効果>

防災施策に男女共同参画の視点が反映され、多様な住民のニーズに対応した、より質の高い施策が可能となる。

<今後の取組>

地方公共団体に防災部局等とも連携し通知。全国説明会やモデル団体での試行研修等を通じ、各地方公共団体へ普及。

(参考) URL : http://www.gender.go.jp/policy/saigai/bosai_kenshu.html

(別添)

男女共同参画の視点から防災を考える（グループワーク）

- ・ 部局・性別・年齢に多様性が出るようグループ編成を実施。
- ◆ **シミュレーションから考える男女共同参画の視点**
 - ・ 発災時の状況をシミュレーションシートにより想定。
 - ・ シミュレーションから、行政が行うべき対策を考える。
- ◆ **男女共同参画の視点からの防災を実践するために**
 - ・ 防災対策の課題を振り返り、男女共同参画の視点から解決策を考える。